

PDCA	事務事業名	運営基盤強化事業	部課等名	水道部 上水道課 料金担当	担当 内線等	佐藤 490	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第3節 生活環境の向上					
		基本施策： 1. 水道					
		単位施策： (2) 健全経営					
根拠法令等	水道法、半田市給水条例						
対象・目的	水道料金を適正に徴収するとともに、お客様サービスの向上や経営の効率化を図り、運営基盤の強化に努める。						
目的を達成するための手段・活動内容	お客様サービスの向上や経営の効率化を図るため、窓口、検針、開閉栓、料金調定収納等業務において、民間委託化を実施する。それに伴い、未収金対策では毎月の文書催告や給水停止によって収納を強化する。また、今後の事業の安定・健全な運営のため、令和元年度、2年度の2か年で経営戦略等を策定し、将来のビジョンを示す。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①給水停止	12	12	10	回	
		②料金業務(受付、検針、開閉栓、滞納整理)	331,062	331,177	334,902	件	
		③検定満期メーター取替	4,396	6,046	5,641	個	
		事業費	83,330	92,363	94,954	千円	
		人件費	625	621	617	千円	
		総事業費	83,955	92,984	95,571	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①メーター1個当りの取替コスト	4,049	4,099	4,742	円/個		
	②料金業務1件当りコスト	198	204	203	円/件		
	成果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①年度末時点における収納率	実績値	98.47	98.42	98.47	%
			目標値	98.40	98.50	98.60	
			実績値				
目標値							
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ある			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 ある				
事業の評価・課題	C お客様サービスの向上や運営基盤強化のため、窓口業務・検針・料金徴収等の包括的な民間委託を継続して実施し、毎月の催告や給水停止などの収納強化を図った。年度末時点における収納率は目標値に達しなかったものの、昨年度実績を上回り、高い収納率を保つことができている。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 給水収益は、長期的には人口の減少や節水型機器の普及により減少すると予測されることから、継続して収納対策の強化や経費の縮減など効率的な運営に努めていく。令和2年度に策定した水道ビジョン・経営戦略に基づき、社会・経済情勢の変化を踏まえた上で、進捗状況を毎年確認、改善の検討を行いながら実施する。					
	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		令和3年度より該当なし					